



# 桃園



### 「公正観」を育てるために

教頭 荻野 綾

木々が紅葉し、舞い散る枯れ葉や冷たい風に、本格的な冬の訪れを感じる季節となりました。12月に入り、2学期もあと残り1か月ばかりとなりました。

さて、今回は、12月の人権週間の取組に向けて、先日読んだ「発達心理学」についてご紹介したいと思います。

#### ☆子どもたちが思う「ずるい」とは・・・

子どもたちの学校での様子を見てみると、物を分ける、道具を使う、役割を決めるときなどに、「ずるい」「ずるくない」という言い合いを耳にすることがあります。時には、教師のアドバイスに対しても「ひいきだ」と納得がいけない様子も見られます。では、いったい子どもたちは、どんな場合を「ずるい」と判断するのでしょうか。

#### 【公正観の発達】

分配的正義（物を分ける）についての認識は、子どもの成長と共に発達すると考えられています。低学年は、利己的欲求が強い時期なので、誰もが自分に多くしたいと考えます。「自分の方が体が大きいから」など、いろいろな理由をつけて「利己的分配」を主張します。そのうち、「絶対に同じがいい」という「均等分配」を求めるようになります。理由を尋ねると、「その方が喧嘩をしないから」と答えます。

中学年を過ぎると、貢献度に応じた「公平分配」を望む子どもも出てきます。高学年以上になると、「必要としている人により多くあげてもよい」と、個々の置かれている状況や立場を考慮できるようになります。さらに、相手に多くあげる「愛他的分配」ができる子ども登場してきます。

こうした物や事の分配を誰にとっても公平だと思えるように話し合い、生活の中で解決していく機会を与えることは、子どもたちの認識を豊かなものにしていきます。

【参考文献：知って役立つ発達心理学 渡辺 弥生（発達心理学・教育学博士 法政大学教授）】

学校という集団生活の場では、子どもたち同士の言い合いやトラブルは日常起こります。そんなとき、子どもたちの思いや意見に耳を傾け、子どもたちの公正観の発達を促したり、社会性や思いやりの心を育てていければと思っております。ご家庭でも、叱るその前に、「なぜそう思うのか」という理由を是非聞いてみてください。

### 個人懇談について

日時 12月17日（火）～20日（金）  
13:45 ~ 16:45

11月26日（火）に日時のお知らせをプリントで配布しています。児童の2学期の頑張りやこれからについて、家庭での様子も含めて交流できればと考えています。よろしくお願いいたします。

## 人権週間の取組

1948年12月10日、国連総会で「世界人権宣言」が採択され、国連はこれを記念して12月10日を「人権デー」と定めています。そして、すべての加盟国にこれを記念する行事をするよう呼びかけています。

これに先だって、桃園小学校では、11月28日の全校朝礼で、先生から、人を思いやり、お互いの人権を大切にしよう、という呼びかけがありました。そして、各学年では人権学習が行われます。（各学年の内容は、現時点での予定です。）

- 1年生 「ことばのちから」
- 2年生 「文字でかいわをしよう」
- 3年生 「みんなちがってみんないい」
- 4年生 「なにができるかな？ なにかができるかな？」
- 5年生 「こんな時あなたならどうする？」
- 6年生 「いじめは残酷だ」

人権は普段から大切にしていかなければならないものです。この人権週間の取組で、その大切さを見つめ直し、普段の言動を振り返ることで、さらに優しい心が児童に育っていったら、と考えています。

### 12月の行事予定

月	火	水	木	金	土	日
2	3 健康手帳配布	4 全校5校時	5 全校5校時 学校諸費振替日	6 全校5校時 健康手帳回収	7	8
		13:50ごろ	14:35ごろ	14:40ごろ		
9 短縮5校時	10 短縮5校時 教育相談 心の授業（4年）	11 短縮5校時	12 短縮5校時 しめ縄づくり（5年）	13 短縮5校時 歯磨き巡回指導（4年） 同志社大学「音楽によるアウトリーチ」授業（5、6年）	14	15
13:50ごろ	13:50ごろ	13:50ごろ	13:50ごろ	13:50ごろ		
16 短縮5校時 福祉学習（手話）（6年）	17 短縮4校時 個人懇談	18 短縮4校時 個人懇談 ももっこお楽しみ会	19 短縮4校時 個人懇談	20 短縮4校時 個人懇談 給食終了	21	22
13:50ごろ	13:00ごろ	13:00ごろ	13:00ごろ	13:00ごろ		
23 短縮3校時 終業式	24	25	26	27	28	29
11:15ごろ			本年もありがとうございました。 3学期始業式は <b>1月7日（火）</b> です。			

※天候等諸事情で予定が変更になった場合は、学校HPやさくら連絡網にてご連絡いたします。

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

全国学力・学習状況調査とは、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における教育指導の充実や学習状況等の改善に役立てる目的で行っています。

本年度4月に行われた調査では、国語、算数、質問紙によるものでした。その結果をまとめましたので、以下のように報告させていただきます。

## 1 学力調査

○国語……全体の正答率：全国平均より+2.3、京都府平均（以下「府平均」と記述）と同じ点数でした。

内容：項目別に見てみると「書くこと」についての正答率は全国平均、府平均と比べて+5%と高い結果が得られました。一方で、「読むこと」についての正答率が全国平均、府平均と比べて約-4%と低い結果が得られました。特に、「読むこと」の記述式の問題では、無回答で回答している児童もおり、文章で記述することに、抵抗感や苦手意識を持っている児童が見られるように感じました。

○算数……全体の正答率：全国平均より+4.6、府平均からは+1.0と上回っていました。

内容：項目別に見ると概ねどの項目も全国平均、府平均と同じ傾向でした。しかし、「変化と関係」（速さの学習の部分）の領域のみ全国平均、府平均を2%ほど下回っていました。

例年と同じ傾向ではありますが、国語・算数ともに、自分の考えをまとめたり説明したりする記述での回答を求める問題になると、途中で回答をやめたり、無回答という児童がおり、正答率が50%以下になる問題がいくつか見られました。一問一答で答えるだけでなく、自分の考えを表現する、解き方を説明するなどの活動を取り入れ、経験していく必要があると感じました。

## 2 質問紙調査の概要

学習、学校生活に関して、基本的に肯定的な考えを持っている児童がほとんどでした。また、昨今求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を積極的に取り入れ、学習が積み上げられていることが、児童の認識から分かりました。一方で、家庭でのICT機器の活用を学習で使っているという項目に課題が見られました。一人一台端末が配布されて以来、ニュースなどでも取り上げられておりますが、スマホやタブレットはSNSや電話などの連絡の手段として用いたり、ネットゲームをしたり、ユーチューブを見たりなど娯楽の道具として活用されている傾向が強く残っております。本校でも、勉強の道具として使っている項目に肯定的な答えは20%しかありませんでした。今後、学校でのタブレット活用方法や宿題での活用方法などを模索していこうと考えています。ご家庭でも少しお子様と話題に上げていただけると幸いです。

## 3 調査結果の分析を踏まえた今後の改善策

◇今まで通りの授業改善の工夫を行い、学力の定着を図る。

◇自分の考えを書く、解き方を説明するなど記述する問題を意図的に取り入れ、子どもたちに指導していく。

◇タブレットを「学習の道具」として子どもたちが認識できるような使い方をしていく。

よりよい学校教育の実現に向けてご理解・ご協力をよろしくお願い致します。